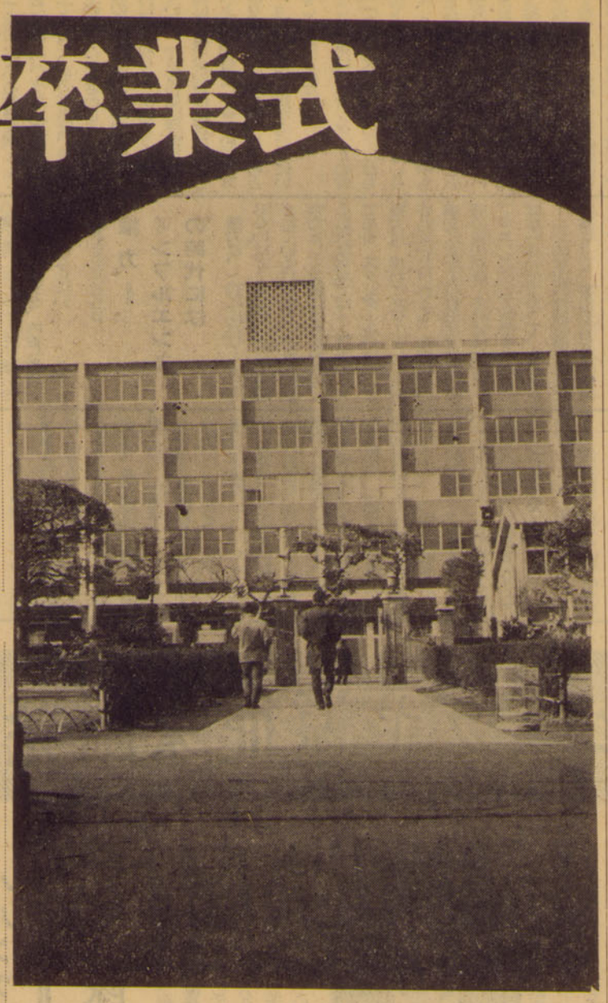
立教大學新聞
発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替東京 70852
電話（983）0111（代）内線688
発行人　野口定男
毎月十五日発行

BOOKS & RECORDS
芳林堂
池袋西口
TEL（971）4080

今日38年度卒業式



昭和三十八年度の卒業式が今日挙行される。経済界の不振にもかかわらず、今年度卒業生の就職状況は九九・五パーセントと好調だった。今年の四年生は安保闘争を体験した最後の学生として卒業していく。それに対照的に今年は終戦っ子が大学してくる。大学においては今年は世代の交代の年である。私たちは紙面を通じて卒業を心から祝福するとともに、立入広太郎経済学部教授の依頼稿を掲載します。

君あしたに去りぬ　ゆふべのこころ千々に　なんぞはるかなる
君をおもふて　岡のべに行つ遊ぶ　おなのべ何ぞかくかなしき

この詩は今から三百二十年前の延宝二年春与謝蕪村が自分を我が子の如く愛してくれた俳人早見晋我の死を悼んで詠じた有名な和詩の一節である。明治・大正期の新体詩にも見まがう詩体が学生時代初めてこの詩に接した私の心に深くきざみこまれて、戦時中友人や教え子達の出征を送る度にいつもこの詩に盛られた別離の悲情をかみしめた経験をもっている。今春学窓を巣立たれる学生諸君は太平洋戦争末期に生れて、戦后の混乱時代に少年期を過ごし、安保闘争の年に大学に入学された人々であつて、戦争中の暗い時代を生活経験としてはもたない人々である。中日戦争から太平洋戦争中に大学に学んだ学生達にとっては卒業は戦場への途に通じていた。大学を出て一ケ月足らずのうちに中支で戦死した親しい教え子もいる。年老いた母を残して比島戦線で散華した学友もいる。私の大学同窓生約三百名のうち三十名以上の学友が戦没しているのである。お世辞にも卒業おめでとうという言葉はお互に云えなかった。蕪村の詩に詠われた別離の悲情こそが、それにふさわしかった時代である。今の学生諸君はその意味で幸福である。

戦后の医学の進歩は結核の治療に成功した。現在では二の病気は不治の病ではない。集団検診や化学療法や成形・肺摘手術の進歩のおかげで青年層の結核による死亡率は激減した。戦前は大学を出て数年のうちに結核で倒れる人達が極めて多かった。私の学友の中にも大学卒業後結核で若き命を失った人達が六、七名は居る。苦しい闘病生活によって戦后まで生きのびて新治療の恩恵に浴した人々だけが断べく命を永らえているのであるが、それはそのおそれはない。今日の学生諸君はその意味で幸福である。

新憲法は学問、思想、信仰の自由を国民の基本的人権として保障している。戦前および戦時中にはこの自由は国民にはゆるされていなかった。多くの人々が天皇制ファシズムの狂気な思想弾圧の犠牲となって獄舎につながれまた獄死している。主権は天皇に在って、国民にはなかった。新憲法は主権在民を規定している。主権者である国民が天皇制を批判しても牢につながれることはない。今の学生諸君は自由に学問を学び、自由に自分の思想をもち、自由に信仰することが出来る。その意味でも今の学生諸君は戦前の学生に比して遥かに幸福である。

結婚についても同様のことが云える。現在では結婚の自由は憲法第二四条によって保証されている。旧法の下では両性の合意があっても家長の承諾がなければ結婚は認められなかった。戦后でもお互に愛し合った人々が家族や周囲の反対にあって心中沙汰を起した事例がいくつかあるけれども、最近ではそのような事件が新聞紙上を賑わすこともなく、学生達も在学中或いは卒業後自由に恋愛し、結婚している。この点も今の学生諸君は戦前の学生に比して幸福である。

しかし諸君が現在考えている幸福な環境は諸君自身には感じない大気中の酸素のように眼にも見えず、手にも触れない、あたりまえのこととして日々の生活体験の中では感得されない性質のものであろう。だがしかし諸君に与えられたこの幸福な環境をつくるために太平洋戦争期には三百五十万人の尊い国民の血が流されているのである。諸君が大学を出て一歩実社会に入ると諸君が大学時代に享受していた諸々の自由は政治的、経済的、社会的条件の中でいろいろにゆがめられ、そのゆがみが諸君の前に大きな壁となってたちさはだかることも多くあるに相違ない。その壁がいかに厚く、いかに強固であろうとも諸君もまた二世代前の先輩達と同じように力強く乗り越えてゆくにちがいない。諸君が自らの力でこの先人の遺産を守り、更に大きく育てゆく意思を乗てないかぎりは。学士諸君、御卒業心からおめでとう。

（たちいり・こうたろう氏は本学経済学部教授・日経史）

卒業生におくる
先人の遺産を守り更に大きく育てよ
立入広太郎

論説
かっての支配者としての責任を自ら問え

(1)

日韓会談をめぐる最近の動きはきわめて目まぐるしい。日韓会談は日韓相方の利害の対立から千年間もつづきながらも朴政権に移って以来、妥結への局面は急速に開けて、現在は懸案問題を残すのみとなっている。懸案問題で一時つまずいたかに見えた会談も、日韓相方とアメリカの早期妥結の掛け声とともに、二年間中止されていた全面交渉がこの十三日より東京で再会された。「今国会中に調印だけでもしたい」という池田総理の言葉に見られるごとく、十年間に渡る日韓会談も時間の問題となってきた。そこには日本・韓国およびアメリカ当事者達のあせりの色が見られる。その直接の原因は明らかにフランスの中国承認にともなう自由主義陣営の足並の不ぞろいであり、それ以来のアジア政策の行きづまりにさらに拍車をかけたことである。南ベトナムにおいては第二の朝鮮戦争を引き起さんばかりにアメリカの政策は行きづまっている。それだけにアメリカの南朝鮮に掛ける期待は大きいし、南朝鮮はいわばアメリカ帝国主義の死守地である。一方国内においてはアメリカの「良き協力者」としての池田内閣はことは外交に関してはアメリカの言うとうりにすることは当然としても、それ以上に十三日に正式にIMF8条国に移行し全面的開放経済体勢に入ったという経済的な要因が日韓会談妥結にさらに情熱を注ぐことになったと思われる。全面開放経済体勢に移行した現在、日本はなんといっても国際的競争に耐えうるには資本力が微弱であり、確実な市場確保が絶対に必要となってきたわけである。また南朝鮮においては朴政権の性格とその経済状態を考えれば、朴政権が妥結を急ぐのは当のことであろう。

(2)

われわれは本紙上において、この反人民的なあるいは人民不在の日韓会談に再三再四次の三点をもって反対してきた。つまり日韓会談が①南朝鮮の反共体勢を補強し日本を反共軍事同盟にひき入れる②日本が南朝鮮に対し、経済侵略をひきおこす③朝鮮の南北分裂を固定化する性格のものであるという諸点である。日韓会談は以上のごとく日本の外交決定の重要な問題にもかかわらず、国内におけるこの問題に対する関心は薄く反対運動はきわめて小さい。フランスの中国承認があれだけ世界をゆるがすものであるなら、日本の外交決定である日韓会談は、われわれ日本人にとってはそれ以上に重大な問題であることを再認識せねばならないだろう。否日韓会談は単に日本の外交決定のみならず、日本人一人々々のかつての朝鮮支配者としての責任問題であることを忘れてはならない。このわれわれの意識の問題からもう一度日韓会談をとらえて行く作業が必要である。それは日本人の思想の問題つまり、伝統的なアジア主義思想を根底から再検討することにほかならない。なぜなら、そのアジア主義思想と日本が朝鮮を植民地支配した事実を被いかくす"かくれみの"であったからである。そのような思想の下では、日本の支配者として人民の意識の中にすら、朝鮮という国と朝鮮民族も姿を消し、そこに残るのは朝鮮民族蔑視だった。この考えが依然今日において日本の支配者、そして多数の人民の中に根をおろしていることは否定できない。そこからは自分自身が植民地支配者であったという責任を自己考えるという意識は生れにくい。日韓会談に対する無関心が一般的なのは、一方で政府・マスコミによる意識的な動きが原因しているが、もっとも根本的な原因は以上の点に求められるのではないか。

朝鮮人民は南北をとわず、日本の朝鮮侵略と支配の責任を、侵略者であり、支配者であるわれわれに激しく問うている。問われているわれわれは、今まで彼らに対する加害者になることによって答えようとしている。

"日本人よ出直せ！それでいいのか"という激怒・深い悲しみの情が混ざり合った朝鮮人民の声が海を渡って、またわれわれの足元からきこえてくる。朝鮮人民のこの問に答えるのに、われわれは先ず、日韓会談に反対することから始めなければならないだろう。

体育会会長賞決る
小宮好雄氏らに

昭和三十八年度の優秀選手、優秀部が体育会およびOBクラブによって左記のとおりに決定された

小宮好雄（バドミントン部OB全英選手権シングルス・ベスト3入賞、全米選手権シングルス・3位、第一回全日本社会人シングルス、ダブルス優勝、全日本実業団シングルスダブルス優勝、国民体育大会優勝、昭和三十八年度読売スポーツ賞受賞）
東条義昭（バドミントン部）
東京都総合選手権複優勝、関東学生単優勝、東日本学生単二位、全日本学生優勝
篠田　勇（硬式野球部）
東京六大学野球秋季リーグ戦打撃ベストテン二位、ベストナイン選出
海保宣生（バスケットボール部）
塙　雅豊（　〃　）
吉田正喜（　〃　）
関東学生選手権優勝、東京国際スポーツ大会出場、関東学生選手権優勝
高橋　紀（フェンシング部）
関東学生総合優勝、全日本大学生座決定戦、エペの部優勝
全日本大学対抗、サーベル優勝、エペ三位、全日本選手権エペ優勝
与謝義昭（ハンドボール部）
中根敏男（　〃　）
安達精太（　〃　）
田村信太郎（　〃　）
関東学生春秀リーグ戦、全日本学生、全日本総合優勝
小林八重子（自動車部）
全関東女子普通乗用車優勝、全日本女子学生ラリー二位
原　三男（レスリング部）
国際アマチュアレスリング大会代表、全日本学生バンタム級二位、東京国際スポーツ大会バンタム級優勝
体育会OB会表彰
優秀部
バドミントン部
フェンシング部
ハンドボール部
ヨット部
優秀個人
米倉宏二（ボクシング部）
故小畑　紘（自転車部）
荒木敏朗（フェンシング部）
尾形　譲（ハンドボール部）
有賀豊文（スケート部）
河野義博（スケート部）
横山謙三（サッカー部）
本田宣行（弓道部）

特別キャプ・マネ会議
三月二六日から四日間

昭和三九年度の文化会特別キャプ、マネ会議が三月二六日から二九日まで、山梨県ハケ岳山麓の清泉寮で開かれる。文化会本部ではこの会議の目的として、次の三点を上げている。

一、各サークルの相互親睦をはかり、サークルの封鎖性を打破する
二、リーダーシップの強化をめざす。
三、今年度文化会の方針に対する具体的な方向をつくる。また、文化会の活動を単なる活動体としてではなく、目的意識を持った運動体としての理論づけを行う。

具体的な討議内容としては、本部構成の政治、経済、文化の現状分析にのっとり、
一、文化運動と学生の立場
二、今後の学館運動
三、立教祭
四、組織強化の問題の四点を討議する。ことに、四番目の問題では学内において社会科学系、文学系のサークルが形成しているブロックのほかに、音楽団体、経営関係のサークルの間で新たなブロック化の動きが見られるところから、ブロック化の真の意味を討議することになっている。

安保以降の一般的状況は消費文明がもたらした大衆社会化状況といわれているが、主体的状況としてはまさに閉鎖状況である。創造活動はそのような閉鎖状況を切り開くものであるが、学内における創造活動の停滞・堕落は極った感である。今回の会議では本学における文化創造に息を吹き込むために徹底的に掘り下げた討論がなされることが切望される。

なお、この会議には松下総長、大賀経営学部長、森脇文化会長、井上商八経済学部助教授、学生会学館常任委員、同志社大学文化会が招待される。

好調だった就職状況
車輌販売関係に大幅進出

国際収支不安、金融引締め、公定歩合引上げムードなどで中小企業の倒産があいついでいる。そのような経済状態の中で就職明るきをうかえた三八年度卒業生は、環境の悪化を忘れさせる程の好調さを示した。本年度就職希望者一七一二名に対して、求人件数は三〇〇〇件を越え、そのうち三二四八名が昨年の十一月までに決定し、十二月末までにはほとんどの者が決定した。二月末日現在一七〇三名が決まり、あと九名が未決定者となっている。この九名（女子六名）は就職希望の意思表示が遅れたことに原因しているが、暫時決まる模様である。今年の特徴は、大企業に少なく中小企業に多くの決定をみたことである。平均初任給は二二〇〇〇円内外で昨年の二〇〇〇〇円を若干上回っている。最低一八〇〇〇円から最高東洋レーヨンの二六八〇〇円である。特に進出の目立った分野は、車両・販売関係（一五三名）銀行関係（一二四名）で、貿易・商事関係も三三〇名と依然として好調である。又例年女子学生の就職状況が問題になっているが、本年度は教職、貿易・商事、宣伝・広告、放送部門などに進出し、過去に比してその分野が幅広いものになっている。企業の倒産のため採用を取り消された者が二名いたが、夫々他の会社に就職が決まっている。学部別にみて理学部が依然として売れっ子ぶりを発揮し、五五名の希望者すべてが望む所へ就職した。他の学部も九九％以上の就職率で全学部平均就職率は九九・五％である（就職部談）景気が良いといわれた一昨年、昨年の就職状況よりも今年の方が良い。大企業が少ない事は、すでに設備投資も終り新従業員採用を控えたことが理由であろう。立教生に対する評判は年々上昇しており、各分野から求人が増え、進出部門も幅広くなっている。これは社交性に富むなどのいわゆる立教タイプが好感されているからであろう。来年度の見通しとしては景気の下降時にあるため楽観できないが、今年程度は確保できるだろう。大企業はあまり期待できないが、貿易・商事、金融関係へは例年どおりの進出が望めるし、今年多くの採用決定者をだした車両販売関係も今後伸びることが予想される。

企業別就職者数　2月末日現在
（　）内女子

機械・造船	72(5)	出版	23(3)
諸工業	33(2)	建設・木材	62(0)
電機・電線	75(3)	銀行	99(3)
精密機械	28(1)	信用金庫・組合	25(1)
車輌関係	152(5)	保険	55(0)
運輸	49(7)	証券	33(0)
倉庫・不動産	19(3)	貿易・商事	339(27)
化学工業	61(3)	百貨店	37(1)
医薬品	34(2)	興行	15(0)
食品・醸造	52(0)	観光・ホテル	64(6)
○業・ガラス	16(0)	放送	18(6)
ゴム・皮革	17(1)	宣伝・広告	44(8)
紡績・繊維	37(1)	官公庁	17(3)
紙関係	17(0)	教職	44(25)
鉄鋼・軽金	45(2)	電力・ガス	4(0)
鉱山・石油	17(0)	その他	52(13)
新聞・印刷	48(2)	計	1703

学部別就職率　2月末日現在

学部	希望者数	決定者数	就職率
経	887	885	99.7
法	300	298	99.3
社	281	279	99.6
文	189	186	98.3
理	55	55	100
計	1.712	1.703	99.5

研究社の英語雑誌
広い視野・実力の源泉
The STUDY of ENGLISH
英語研究
4月号 100円
▼（対談）アメリカの大学生活▼アメリカの女子大学生の生活と意見▼現代イギリス文学で何を読むか▼新講座・英字新聞の読み方・英文法ゼミナール・英文精講▼ロレンス『恋する女』等
近代感覚漲る文化語学誌
時事英語研究
4月号 120円
日系米人物語（ラウチェク教授特別寄稿）在日外人の生態（外人教師の討論会）映画台本「逆転」Daily Mail紙の英語（萩原文彦）K. K. Kawakami氏の思出（白井楽山）オリンピック用語
東京都千代田区富士見町二ノ一　研究社　全国書店売出中

本の御購入は
種類豊富な
東京堂
1階　一般書　参考書　雑誌
2階　専門書　洋書　文庫
神保町すずらん通り　Tel.(291)5181

岩波基本六法
39年版
B6判／上製函入／1206頁
500円
●総編集／末川博
●編集／大森忠夫／窪田隼人／滝川春雄／田畑茂二郎／宮内裕／山木戸克己／山口友吉／鍋飼信成／小林直樹／芦部信喜
どの法学教室でも圧倒的好評！
〈比較参照・各国新旧法令〉
▼講義と実務に必要な法令を網羅　二三六件
▼各国の法令を比較参照できる　憲法・民法・労働法の各部門
▼旧法令を比較参照できる　旧憲法・民法旧規定・商法旧規定・治安警察法・治安維持法・出版法・新聞法等
▼断然充実している国際法部門　国際法の講義に必要な条約協定等もれなく収録　部分的移停条約は国際法部門に、ILO87号条約は労働法部門に収載
▼完備した参照条文　各法令の関連が一目瞭然
▼全収録法令を対象とした「総合事項索引」
▼学習に必須な「法の成立と運営」　立法過程、国家行政機構など12図表を収録
▼日常生活に至便の「手数料等一覧」　印紙税や手数料の額など一目でわかる
▼民法・商法・地方自治法の改正法など収録法令の改正は完全に収載
▼商業登記法・中小企業基本法等の重要新法を収録
▼別冊『改正刑法準備草案』をご希望の方に贈呈
岩波六法全書／39年版
創刊以来四十年近い伝統をもつ岩波六法全書は、年毎に主を重ね、今や最も完備した理想的六法全集として定評を得ております。39年版は、二月中旬に発売いたします。
予価一九〇〇円
東京・神田・一ツ橋／振替東京二六二四〇／岩波書店

現代の要請にこたえる
東京大学法学部教授　伊藤正己
学生諸君に大きな福音
神戸大学法学部教授　柚木馨
現代の要請にこたえる
東京大学助教授　常木実
学生諸君に大きな福音
神戸大学法学部教授　柚木馨
わかりやすいドイツ語　東京理科大教授　青木一郎著　全訂増補77版　価三五〇円〒60
わかり易い中級ドイツ語　東京理科大教授　青木一郎著　B6判13版　価三〇〇円〒60
入門ドイツ語　東京大学助教授　常木実著　B6判31版　価三五〇円〒70
ドイツ語の基礎　中央大学教授　橋本文夫著　B6判52版　価五〇〇円〒80
独英対照文法　愛媛大学教授三好助三郎著　B6判　三二〇頁　価四五〇円〒80
ドイツ語の基礎　東京外語大教授　藤田五郎著　B6判15版　価一五〇円〒40
ドイツ文の構造　武田昌一・吉田次郎共著　B6判二五〇頁　価三五〇円〒70
ドイツ語の要点　東京外語大教授　藤田五郎著　B6判15版　価一五〇円〒40
独文解釈の研究　横浜国立大助教授阿部貢隆著　B6判二七〇頁　価四五〇円〒70
ドイツ文法の知識　横浜国立大助教授　阿部貢隆著　B小判二六頁　価一〇〇円〒40
独文解釈の演習　北海道大学助教授　小栗浩著　B6判新刊　価三〇〇円〒50
ドイツ文法の知識　東京理科大教授　青木一郎著　B6判11版　価一七〇円〒60
現代独作文　仁科武光・W・ミュラー共著　B6判三二頁　価四〇〇円〒70
おぼえ易い表解ドイツ文法　東京理科大教授　青木一郎著　B小判絶本折　価一五〇円〒40
接続法—その理論と応用　東京大学助教授　常木実著　B小判二六頁　価三〇円〒40
一目でわかるドイツ語変化表　名古屋大学教授　藤本直秀編　B小判　新刊　価二〇〇円〒30
ドイツ語の鍵　郁文堂編集部編　B小判二四〇頁　価二〇〇円〒40　文法問題集　ヒント解答付
ドイツ語基礎単語熟語　郁文堂編集部編　B小判　94頁　価一五〇円〒30
ドイツ基本単語二〇〇〇　中央大助教授大岩信太郎著　B小判二三〇頁　価二五〇円〒40
ドイツ単語五五〇〇　相良守峯博士監修　全国学校図書協議会選定
ドイツ語の知識　横浜国立大助教授阿部貢隆著　B小判二六頁　価一〇〇円〒40
ドイツ語基礎会話　郁文堂編集部編　録音シート四枚をテキストブック（B大判40ページ）に収録　価六〇〇円〒40
大学ドイツ語講座　全六巻　I前期篇　II後期篇　III文科篇　IV理科篇　V医科篇　VI生活篇　A5判上製　価各四五〇円　〒一〇〇
小独和辞典　文博・成瀬清・文博　佐藤通次著　◇文章語の適切・豊富・新鮮　◇語源の明示・検索・記憶の便　◇主要な語には英語を照応！　ポケット判　価四五〇円　〒30
橋本ドイツ語講座　全三巻　興味ある挿話が文法と平行し、知らぬ間に実力が養成される。　A5判　価各二五〇円　〒50
初級入門書の決定版
独和対訳叢書
ハイゼ片意地娘　シュトルム湖畔
対訳読本篇　シュミットボン　幸福の船
ゲーテとの談話　シュトルム　プシーヘ
リルケ詩集　カロッサ　ドーナウの魔力
ヘッセ郷愁　クライスト　侯爵夫人
ヘッセ青春は美わし　グリム童話
一科学者の回想　スペインのバラ
ドイツ詩評釈 I・II　日本大学教授　万足卓著　価I三三〇円　II四五〇円〒60
ドイツの諺　新潟大教授野本禅治著　価三五〇円〒40
課外のドイツ語　独和対訳　堀内明・山口一雄共著　A5判二三頁　価一〇〇円〒50
録音シート　佐藤晃一・ウーテノー吹込
ドイツ語専門出版　郁文堂　東京都文京区東大正門前　振替東京一四九八一

政治と文学論争の意味 (3)

――奥野、吉本氏と新日文系の論争を中心に

本紙六三年十月十五日号（二二四号）の武井昭夫氏の論、それに対する六四年一月一五日号（二二七号）の村上一郎氏（当時『試行』同人）の反論を掲載したが、ひきつづき第三回目として今回は『構想の会』会員高知聡氏の寄稿を受けた。本紙では読者からの異論、感想を寄せられることを期待する。

中間者スタンダールとの皮肉な合致

私たちの内部の襞の奥にまで政治がその影を落しているのが現代であってみれば、「政治と文学」は、二十世紀の文学者が負わねばならぬ最大の課題の一つであることは、発んど自明といっていいのであろうけれども、この現代的課題の端緒的なかたちは、おそらく、階級と階級の中間に立つのと同様、時代と時代のあいだに立っている」と評されるスタンダールにもつとも微妙なかたちで示されている。「政治と文学」という一般的な課題は、私にとっては「革命と文学」として主体的に措定されるものであるけれども、その主体の課題からいえば、大革命とサド、パリ・ユミューズとランボオなどが考察の素材として現実性を帯びてくるのに反して、問題を「政治と文学」に一般化するとき、私たちは関心を、時代と時代のあいだ、すなわち大革命と四八年＝パリ・コミューズの激動の中間期に立つスタンダールに寄せざるを得ない。しかも、このスタンダールの時代とその姿勢は、「政治と文学」を外的な要請のことくに負わされていて、それを「革命と文学」といったかたちに内的に転化し得ないでいる私たちの時代とそこでの昨今の政治と文学論争者の姿勢に、皮肉なかたちで合致してしまうらしく思われる。

政治を扱って、その作品のうちの政治と文学が古典的な均衡を保って定着している美事な例として私たちは『パルムの僧院』をもっているが、その著者は、歴史の中間期の人にふさわしく、また現実の「階級と階級の中間に立つ」人にふさわしく、次のように述べている。「文芸作品に登場した政治は、音楽会の最中に放たれたピストルの轟音のごときもので、耳障りで悪趣味ではあるが、だからといって、それに注意を向けずにいることは許されない」

この言葉は、スタンダールの時代「政治と文学」がどのようなものであったかを示唆してはいるが、それ以上のものは何も明示もまた暗示もしていない。けれども現在、私たちの周辺を騒がしているピストルの轟音は、このまだ深く過去されていない端緒的な意識との関位にあって発されているのである。ある者は、文学は政治に従属しなければならぬと強制し、ある者は、文学は政治から自立せねばならぬと主張しているけれども、それはあたかもスタンダールの鏡質の裏と表の差異でしかないもちろん二世紀以上も離れたスタンダールとわが無自覚な論争者たちのあいだには、巨大な痛苦を埋めた断層があるが、その埋没した暗い層とその緊張を自覚することがなければ同者が、中間期における中間者として合致してしまうことはさけられない。しかも、わが無自覚な論争者たちは、埋没している暗い層とその鏡影の政治と文学論の地続きの系列の果てにいて現在、その頂角を中間者として露わしているのである。

さて、サドやランボオにおける政治＝革命と、スタンダール（や武井昭夫や奥野健男）における政治は、それが主体的であるか、外的であるかという差としてあらわれる。中間期の人スタンダールは内的な独自の政治思想をもっていたわけではなく、政治に対する希望も微弱にしかもっていなかったから、その作品にあらわれる政治は、すでにバルザックをはじめ多くの評家が指摘しているように、マキャベリズム＝政治技術でしかなかった。政治は外的で、それを無視することはできないけれども主体の内的なパトスと結合することもできなかったのである。

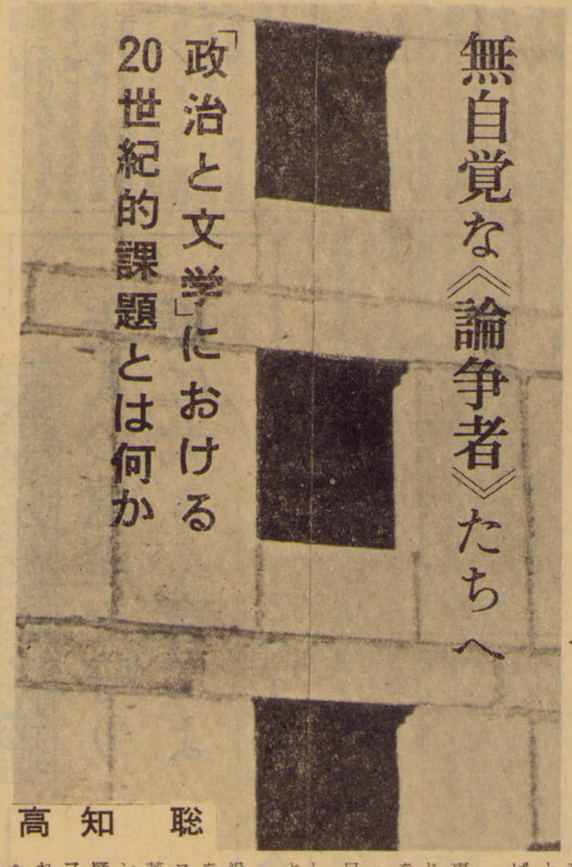
ドストイェフスキィを経て、二十世紀に引継がれてゆく「政治と文学」は、この外的な政治の文学者主体への内在心の歴史として、もはや離れスタンダールには戻れない意識として形成されてきた。マルローにとって、シローネにとって、ケストラーにとって、そしてオーウエルにとっても、政治は決して外的ではなかったのである。そして、これはおそらく現実の歴史に不可分の関係にあるといえるのであろう。

私たちはここで、私たちの内部の襞の奥にまで政治がその影を落している事実を、内省しておかなければならない。

権力＝インフルエンスの時代には

権力は、一般にはパワーとしてあるいはオーソリティとして理解されているけれども、それが政治権力として実体化されない模糊たる広大な領域はインフルエンスである。スタンダールの時代には権力は、露わなパワーとして認知されていたけれども、帝国主義の成立に対応する社会民主主義の形成の時代以降、それは隠蔽なインフルエンスとして認識されなければならないのであって、しかもレーニン的な古典帝国主義の時代とは異なって、現代帝国主義の段階では、一方ではマス・コミュニケーション・メディアの異常な発達他方では革命運動のスターリン主義的疎外に規定されて、このインフルエンスとしての意味は一層重く深いのである。この権力＝インフルエンスの問題を端的に捉えるためには、私たちは「国民」の問題を考察すれば足る。

政治が逆説している最高の頂点は戦争と革命であるという埴谷雄高の指摘にしたがってこの考察を進めてみると、平時は自身を単に人間として自覚しているすぎない多くの層を「国民」として自覚させるべく要請し、強制し、組織する瞬間は、戦争期である。それははじめは影響力として外からなされてゆくけれども、そこに「国民」が形成されてしまうや、それ自身が内から発していく思想をもつた勢力になる。インフルエンスは、文学運動影響力＝勢力として一個一個の関係をうつ。さて、革命は、このような戦争に対する闘争であって、それは必然的に、「国民」となることを超えた、全人民的、全世界的志向をもっている。ビスマルク軍からフランスを守るために結集した「愛国」的なパリのガルド・ナシオンが、そのコミューズのもとに権力を収めてからは、除々にその「国民」的性格を捨て、亡命ポーランド人をはじめとする外国人を受け入れ、内外にわたってインターナショナルな性格を顕現していった一八七一年の経験は、おそらく偶然ではない。けれども、スターリン主義が確固として成立してしまったときから、革命のインターナショナルな本質は、二国革命＝二国対全主義論を基軸とするスターリン主義者によって、「国民」的なものに疎外されてしまった。私たちはその政治的なすがたを退化形態主義またその文学的な後退化レイ・アラゴンに認めることができる。戦争が私たちを「国民」にしてしまうことに抗して私たちは革命を志向するが、いまは革命が私たちを「国民」にしてしまうという手酷い疎外がもたらされているのであって、政治は、その影わな、また隠蔽な網の目をこまで拡がり、私たちの自立をさいなんでいるのである。あえていうなら、権力がインフルエンスとしての意味を濃くしている現代では、あらゆる事物あらゆる運動がすでに何らかの政治の影響を負っている。私たちの政治も、私たちの文学も、このきわめて政治的な現実に立脚して出発してきたのであり、またそうあるほかはなかったことを、二十世紀前半の「政治と文学」の総体が示唆しているのである。政治的な小説家であったオーウェルが創作したために採殺されてしまったアエルホリドの悲劇を典型として直き殺されはしなかったが文学的発言はもとより社会的な存在まで疎外され純化されたアフィゲーノフを傍に添え、「逮捕されたのちみな影絵のようにひと知れず死亡」してしまったヤセンスキイ、キルション、アヴェルバッハなどを思出させながら、芸術家の採殺にまで及んだ「政治と文学」の緊張した対立を追求する。この追求はもちろん、パステルナーク問題にまで言及されるが、さて、私たちはここで、これらの素材がすべてスターリン主義庄政下での、権力と文学者の問題であることを知っておく必要がある。問題は具体的・現実的でスタンダールやドストイエフスキーの場合のように作品のなかに定着された「政治と文学」は追求すべくもなく、したがって文学上の「政治と文学」ではなく、政治事件としての「政治と文学」者のみが論評されるのである。しかし、ソヴェト文学の影として伏せられてきたこれらの政治的な事件が明るみに出てくるとむしろ、メイエルホリドたちの影を負うことによって、多くのソヴェト文学者の姿勢が決定的に緊立してきないので、大さっぱな図式を抽いておかなければならない。それはおそらく、次の二つの先行する考察を素材とすることができる。一つは埴谷雄高の諸論文の基調をなしているものであって、そこでは、社会主義リアリズムを批判



無自覚な《論争者》たちへ

「政治と文学」における20世紀的課題とは何か

高知　聡

「作家が政治に参加するときは、市民として一個の人間として参加すべきであって、作家として参加すべきではない。……党のためにいかなる奉仕をするとも、党のために書くことだけはしてはならない」とも述べている。この言葉は二十世紀前半の「政治と文学」の総体を考察するためには、ときおり想起してみるに足る言葉である。

スターリン主義との訣別の主体化を

さて、私はいま二十世紀の政治と文学の総体を考察するための準備も、また充分な紙面ももたないけれども、現在の政治と文学論争も、その大きな輪郭のなかに位置づけてみなければその真の意味を抽出できず、それを小さな部分として封じ込めてしまうことでは、社会的な存在まで疎外されてしまうのである。

さて、埴谷雄高が現実の政治的事件について考察して、作品を論じていないことと対照的なかたちをみせているのは、アーヴィング・ホウである。ホウはじたい作品のなかの「政治と文学」を考察しようとしているが、それは次のような簡潔な図式を生んでいる。「二十世紀の政治小説は一本線に沿って動き、次第に険しくなる坂を絶望へと落ちこんで行く。マルローの『人間の条件』に見られる革命への熱意は、シローネの『パンと葡萄酒』において反抗的な復讐となり、そこからアーサー・ケストラーの『真昼の暗黒』に現われるスターリン主義の象徴的勝利へと移って行くのだが、この推移のうちに、われわれは現代の縮図を見ることができる。」

マルローが扱うのは、スターリンとトロツキーがともにその「中国革命論」で論争し、二人の決定的な敵対にまで達することになった上海革命であり、シローネはトリアッチとともにコミンテルンの会議でトロツキー除名に反対してトリアッチと訣別していった古いイタリア共産党の指導者であり、ケストラーが扱うのはスターリンの暗黒裁判そのものである。いわば埴谷雄高が、ロシアにおけるスターリン主義と文学者を扱っているのに対して、ホウは、ヨーロッパにおけるスターリン主義と文学を扱っている。この埴谷とホウの視角を合わせることで、文学上の「政治と文学」は、その問題の全体性に近づくことができるが、ところでしかし、もし私たちがここにとどまるとすれば、それはただ二十世紀前半の政治と文学問題の評論的総括すぎなくて、この世紀の中葉にいて、その世紀末にかけて新たに展開して行くべき「政治と文学」の飛躍のためのスプリング・ボードを適確に定置することにはならないだろう。私たちはこのホウの落している素材、スターリン主義の西ヨーロッパにおける文学的開花としてのルイ・アラゴンをはじめとする抵抗文学、また、その影となっているトロツキー主義とアンドレ・ブルトン、そして、二十世紀文学の二つの課題として埴谷雄高が示唆する「戦争と革命の力学の追求」と「存在論の領域への踏み込み」の中間にいるJ・P・サルトルをも素材として深く追求して行くべきなのである。けれども、埴谷雄高もホウもこのようなヴィジオンに達するまでに考察を進めてはいないとしても、問題の所在がスターリン主義であることはともに洞察していて次なる私たちの出発点が奈辺にあるかは暗示している。スターリン主義とは何かを分析的に究め、それからの総合的な訣別を主体化していくことこそが、二十世紀前半の錯誤にみちた政治と文学論から私たち自身を飛翔させていく端緒となるであろうことを――。

けれども、さて、右のごとく要約され得る問題意識は、わが無自覚な論争者たちのいずれにもない本稿が扱うのは、その武井・奥野

〔訂正〕

本紙二一七号に掲載された「中国革命と中国学術代表団来学」の記事に於て今回の代表団の来日がアジアフォード財団の東洋文庫への資金供与問題をきっかけに実現されたものとしたが、中国学術代表団招聘運動はこの問題より以前から京都の中国研究者を中心にすすめられていたことが判明したのでここに訂正いたします。

――高知聡氏は構想の会会員――

立大ヒマラヤ遠征隊出発

バルンツェ・ペタンツェをめざして

隊長は福田宏年助教授

立大山岳部では、三年前からヒマラヤ学術踏査の計画をねってきたが、この三月六日、一一日に福田宏年助教授を隊長とする踏査隊が、バルンツェ（七一八四メートル）ペタンツェ（六七三〇メートル）をめざして出発した。本学山岳部のヒマラヤ遠征の歴史は古く、戦前の昭和一一年のナンダ・コット（六八六七メートル）登頂は、我国山岳界ではじめてヒマラヤに歴史を刻んだものである。今回の立大隊によるヒマラヤ遠征は、それ以来二八年ぶりであり、各方面からその成果に期待が寄せられている。

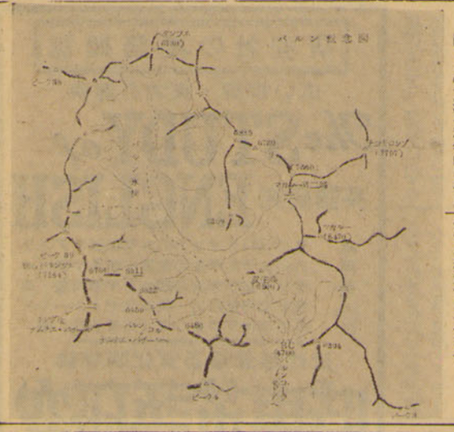
立教大学ヒマラヤ学術踏査の計画は、昨年の一一月であり、それが実行に移されるまでにわずか四カ月というスピードぶりだった。

三月六日に先発隊として、山野井武夫（立大―32卒）遠藤泰司（立大―38卒）の両氏が、一一日に後続隊として、隊長福田宏年助教授、大倉昌身（立大―37卒）の三氏が出発したが、踏査隊は三月中旬にビラトナガルに集結、そこでキャラバンを編成する。四月二日にはドアに到着、四月六日から五月三日までは学術調査および周辺地域のバルンツェ（七一六四メートル）ペタンツェ（六七三〇メートル）の登頂を試みる。その後、六月五日バルン・コル経由帰路につき、七月一五日に東京へ帰ることになっている。

今回立大隊が調査するバルン氷河地域は、マカルー（八四七〇メートル）より流出された氷河で、近辺にはバルンツェ（七一八四メートル）一九五四年ニュージーランド隊登頂、ペタンツェ（六七三〇メートル）一九五四年フランス隊登頂などの山々がある。

踏査隊の目的は、バルン氷河において地形、地質、気象の研究および調査を行い、四五〇〇メートルに至るジョクバニ、ダンクタ、アルン河流域、セドア、バルン氷河の道程においてネパール、チベットの言語、民俗、植物、地質の調査の実施におかれている。バルンツェ、ペタンツェ登頂の際は高所生理、特に高度順化に関し、よりスムーズなる順化方法、気象の観測、氷河地形等を研究しつつ登山する。

なお、この踏査隊には、ネパール政府連絡官一名、シェルパ一名、ローカル・ポーター二名、ポーター往路五五名、帰路二五名が参加する。費用は外貨九四七七四〇ドル内貨八四五〇〇〇ドルとなっている。



注、高度順化方法とは、最近になって注目を集めるようになった登山方法である。すなわち高所に登るに従って気圧が低くなり、急激に登ることは非常に困難である。それを避けるために、五千メートルの地点まで登った四千メートルの地点まで下り、それによって低い気圧に慣れる方法が考えられた。今回の登頂の際には、この方法を科学的に採用しようというもの。

隊長福田宏年助教授の話し

バルン氷河地域は日本からまだ行ったことがなく、写真で見てもヒマラヤでもっとも景色の美しいところだ。ネパールにはまだ知られていない山が沢山ある。それを見つけてきたい。また今後第二、三次隊も送りたい帰ったら写真展なり、蝶や植物の展示会を開きたいと思っている。

なお本紙は踏査隊が帰国次第、福田先輩執筆の登山日記（形式は未定）を掲載する予定です。

☆　☆

本紙六四年一月一五日（二二七号）の村上一郎氏の「『武井昭夫君をかなしむ』主としてその読者組織論を駁す」の文中誤植がありました。さきに郵送いたしました正誤表の分も含めてここに訂正するとともに、筆者村上一郎氏に深くお詫びいたします。

文中リードの部分

上段右から二行目左視→左視、下段右から七行目大衆→大衆八行目大島渚君→大島渚左から六行目「反対体大衆」→「反対制大衆」

記事の部分

一段目左から九行目一段目右から四行目左から一九行目「異体」→「異本」四段目左から二五行目ナリストがる→ナリストぶる五段目左から二行目→うま者思想→うまり思想左から二二行目求道的あろうと→求道的であろうとし七段目右から二行目反車→皮膚右から一四行目自由な文学→自由な文学」八段目右から一行目シェンスとコンシェンス→シェンスとコンシェンス右から二二行目判って→判った二二行目理論→理論二三行目述べ→述べた左から二二行目即した文学→即した文学論は今まで気づかなかった文学四行目現実→トル「一段目右から五行目ツウ→ツッ二七行目思回（りんね）→輪廻（りんね）左から七行目活動→神話

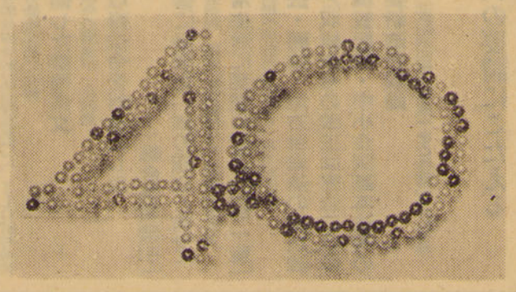
（編集部）

予約購読者募集
新聞学会

若さで躍進！
日本信託銀行
本店　東京都中央区日本橋通3の2の1（日本橋高島屋筋向丸善隣）
TEL 272―1261（大代表）
支店　下谷・神田・本所・田村町・浅草・亀戸・馬喰町・池袋・銀座・千住・蒲田・新宿・田端・立石・五反田・赤羽・阿佐ケ谷・大阪・京都・横浜・千葉・市川・水戸・日立・宇都宮・高崎

池袋の明日を代表する　明るい雰囲気！
Coffee & Tea ¥70 モーニング・サービス卵又はトースト付
<AM、10.00～PM、11.00>
純喫茶
銀座茶廊 池袋店
●毎月～月8回ご来店の方に日勝地下へ御招待、10回ご来店の方に日勝又は日勝文化へ御招待、16回の方に池袋松竹へ御招待
池袋駅東口・池袋松竹2階　TEL(971)6746

新築開店
地下と1・2階一般席
3・4階御座敷 大小宴会応需
中國料理
北京亭本店
本店 池袋西口駅前 TEL(981)8686(代)
別館 池袋西口(シネマロサ前) TEL(982)2213(代)

創立

周年
ことしは東京オリンピックの年
〈ときわ〉はことしでちょうど
40周年を迎えました
"時"の銀行 常磐相互銀行
本店・東京・神田富山町2　TEL(251)代1181

男女学生マーケッテニグ・マン
（市場調査）募集（非常勤）
○勉強しながら出来るアルバイト
○遊びながら出来るアルバイト
○誰にも出来るアルバイト
どなたでもかまいませんが、商店、会社、病院等経営の御子息、御令嬢には特に簡単に出来ます。人員には制限を設けませんので多数ハガキで御応募下さい。説明書御送付致します。
新三菱重工株式会社特約店
泰平産業株式会社
東京都渋谷区上通4―26
(408) 7369・4046

新版 社規社則集
●経営の基礎を築く最新最大・完璧な規程全集
高宮晋編
A5判 二〇九四ページ 布クロース装上製函入 五五〇〇円・〒100
社規社則は経営の最も重要な基礎。この基礎づくりには模範的・理想的実例から学ぶのが最良の近道。最近の経営活動の飛躍的進歩を反映し、各社の諸規程もいっそう進歩した。本書は、優れた最新の規程を豊富に収録し、各種規程の作成・改善業務手続の企画、経営組織の改善に不可欠の資料
〈目次〉社規社則の体系と作り方／定款／組織／労働・人事／稟議・決裁／規程・通達／文書／報告書／帳票／社報・図書・社印・庶務／購買・資材研究・生産／販売／資産・損害／経理／内部監査／業務改善／企般管理
〈収録業種〉セメント／写真／製菓／化学／石油／パルプ／製紙／繊維／鉄鋼／造船／電機／金属鉱業／銀行／保険／証券／商事／電力／交通／他

最新刊
●学界・実務界　最新の成果を集大成した完璧な辞典！
体系経営学辞典
高宮晋編
B6判 一五〇〇ページ 布クロース装上製函入 二三〇〇円・〒100
三年にわたる細心・綿密な配慮と調査のもとに結実させたもの。各項目の解説は詳細・厳正・標準的であり、索引項目一七〇〇〇はこの種の辞典では最大であり、関連諸科学を含む広範な内容をもっている。さらに貴重な付録と完璧な索引は、管理・調査・研究・論文作成に大きな役割を果たす。
重版
東京・千代田区・電関 振替 東京二五九七六
ダイヤモンド社